

幼児教育ネットワーク主催 2021 年度オンラインセミナー報告

2年目のコロナ下、オンラインをフル活用して積極的にセミナーを開催しました。遠くに居ても、外出できなくても、情報発信と情報交換に努めた年になりました。以下、セミナーの概要記録です。

【第1回】テーマ：マラウイ農村部の貧困層への就学前教育の普及を目指して

講師：谷口 京子先生（広島大学准教授）2006 マラウイ理数科教師

日時：2021年4月18日（日）16:00～18:00】

持続可能な開発目標（SDGs）の中に、2030年までに「すべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達支援、ケアおよび就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする」とあります。マラウイの就学前教育の就学率は低く、世界平均61.8%であるのに対し、マラウイ27.4%でした。が、1994年に初等教育の無償化が導入されると、就学率が急激に向上しました。

その一方、マラウイの初等教育の残存率は5年生で64.5%、最終学年の8年生で31.5%と非常に低い現状があり、留年は、学力が低いことが大きな要因で、転校は学力の低さや両親の不在が要因、退学は初等教育入学時の年齢が高いこと、どちらか一方の親がいること、学力が低いこと、教員の遅刻が多いことが要因となっていることがわかりました。また、初等教育へのアクセスは、就学前教育の経験の有無にも関係しています。実際に、就学前教育を2年以

上経験すると、6歳までに入学する割合が高くなることが実証されました。また、就学前教育の経験がなかったり短い期間である場合、小学校5年生の退学率は高く、就学前教育を2年以上経験している小学校5年生の学力は高いことがわかりました。

つまり、就学前教育の経験が有る子どもは、適年齢で小学校に入学し、小学校での退学率の減少と学力習得に繋がっていくことが明らかになりました。

講演後、参加者同士で懇談を行いました。講師の先生からは、「長年の調査からマラウイにおける就学前教育の重要性を認識した」「JICAの草の根技術協力を活用して就学前教育を普及し、小学校への接続を考えている。幼児教育のOV会組織である幼児教育ネットワークに幼児教育に関わる支援をお願いしたい。」というご提案もいただきました。

（文責：久保田）